

令和 7 年度（第 46 期）明朗大学開講 「講談で学ぶ地元の歴史」でスタート！

5 月 28 日、今年度は 71 名の受講生をお迎えして矢沢地域振興会が主催する生涯学習事業の主体である明朗大学が開講しました。

開講式は、大森松司副会長の司会で進められ、63 名の方が受講する中で、中島健次会長が歓迎のあいさつを行い年 10 回に及ぶ講座の幕が開きました。

記念講演は、講談師の地伏亭金目さんの「講談で学ぶ地元の歴史」というタイトルで、花巻ゆかりの歴史上の人物を描いた講談。初めに宮沢賢治さんの「雨にも負けず」に触れられ、続いて「花巻開町の祖」とも言われる北松斎の花巻城の大改修やまちづくり、さらに唯一の花巻城主南部政直の生涯を、金目さんの名調子とユーモアに会場は笑いや拍手。参加者からはたいへん勉強になったとの感想の声をいただきました。今後の明朗大学にも多くの方の受講を期待しております。

令和 7 年度（第 46 期）



矢沢明朗大学

研修資料



矢沢の木「やまぼうし」



受講生を代表してあいさつ
高松地区の石川まさ代さん



熱演する地伏亭金目さん



会場いっぱい
受講生のみなさん

第 57 回矢沢地区民運動会へ参加しよう！

矢沢地区体育協会（越後晃一会長）では、2 年に 1 回開催している矢沢地区民運動会を 7 月 13 日（日）に、矢沢小学校の校庭で開催することで準備を進めています。

矢沢の各地域から多くの方が一堂に会する数少ない機会です。各行政区さんともに参加できるよう今からの取り組みをお願いいたします。

なお、雨天の場合には 7 月 20 日（日）を予備日としています。

詳細については、「やまぼうし」7 月 1 日号でもお知らせいたします。



2 年前の運動会の模様

◎ 第2回 明朗大学のご案内

- ・日時：6月25日（水）10時～
- ・会場：矢沢振興センター
- ・講師：宮沢賢治記念館学芸員
宮澤明裕（あきひろ）さん
- ・演題：「宮澤清六と兄妹」

【入講生のみなさんはもちろん、一般の方でも、興味のある方のご来場をお待ちしています。また、いつでも入講可能です。】



10年前リニューアルの
宮沢賢治記念館
(季刊やまぼうし掲載)

○ 地域づくり交付金査定委員会を実施

6月10日、矢沢地域振興会では、各方面から提出された地域づくり交付金の採択について、査定委員会で検討を行いました。今年度は事業予算860万円に対し要望額1,261万円と、査定は非常に厳しいものとなっています。

なお、第1回目の役員会を6月27日（金）に開催し、交付金事業の執行を決定の上、事業を進めることとなります。



○ 長年防犯活動尽力・防犯隊表彰

花巻市防犯協会（会長・上田東一市長）は5月20日、市交流会館で総会を開催。この席上で長年にわたって防犯活動に尽力された防犯隊員が表彰されました。

矢沢地域振興会の伊藤昇副会長は、今回50年勤続表彰を受けられました。伊藤さんは長年にわたり花巻市防犯協会矢沢支部長を務められ、組織強化に努められました。支部長を辞した後も早朝に青パトを運転等、防犯活動に積極的に取り組んでおられます。



♡ ニューフェイス

誕生！

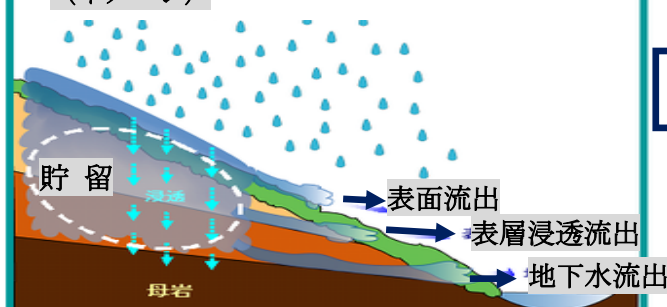
今回も元気なかわいい赤ちゃんがこども広場に参加してくれました。



【事務局員のつぶやき】（出水期となりました。大雨には十分なご注意を！）

「雨が止んでいるのに土砂災害警戒情報や大雨警報が発表のままだよ？」との声がよく聞かれます。そこで大雨警報等の情報についておさらいをしてみます。大雨注警報には主に短時間強雨に起因する浸水被害を対象としたものと、長雨や量的に多かった大雨に起因する土砂災害（土石流・がけ崩れ）を対象としたものの2種類があります。土砂災害を対象とした注警報の基準は、以前は24時間降水量等で決められていましたが、現在では土壌雨量指数を用いています。土壌雨量指数とは、降った雨による土砂災害危険度の高まりを把握するための指標です。平成11年6月29日、3時間降水量140ミリ以上の大雨の地域で土砂災害が集中発生、死者32人に及ぶ広島集中豪雨。このこともあり、気象庁では土壌雨量指数の開発を進めてきました。これは降った雨が土壌中に水分量がどれだけ溜まっているかを、タンクモデルを用いて数値化したものです（下図参照）。この指数を注警報の基準に用いたのは比較的最近？のことで、私が退職した年の平成20年5月28日です。なお、土壌雨量指数を注警報の基準に用いるため、気象庁が持っている雨量データと県が持っている土砂災害データから基準化を進めてきたものです。これより先の平成17年9月1日から体制の整った県から気象庁と県が共同発表する防災情報として土砂災害警戒情報が始まりました。この土砂災害警戒情報は大雨警報が発表中に土砂災害の危険性がより高まった場合に発表する防災情報で、市町村長が避難指示を発令するための判断や自主避難への参考となる情報です。つまり、雨が止んでもあるいは弱まったとしても、土砂災害警戒情報や大雨警報が発表になっている間は、該当地域の土の中にはまだ多くの水分が含まれており、土砂災害の危険性が残っている状況を表しています。情報が解除されるまで引き続き十分な注意警戒が必要となります。

降った雨が土壌中を通して流れ出す様子
（イメージ）



モデル化

各タンクの貯留量の合計が土壌雨量指数

